



# 国府台女子学院 小学部だより

市川市菅野3-24-1

Tel 047-322-5644

Fax 047-322-5655

<https://www.konodai-gs.ac.jp/>

## ご入学・ご進級 おめでとうございます

学院創立98周年の春を迎えました。

暖かな風の中、学校の花々も色とりどりに咲いて、華やかな気持ちになります。

子供たちは新しい学年への抱負をそれぞれ抱えていることと思います。一生懸命がんばることができるよう職員皆で応援します。

今年度もご家庭のご理解ご協力を  
よろしくお願いいたします。



## 令和6年度 「子供の読書活動優秀実践校表彰」 文部科学大臣表彰者に小学部が決定！

全国で169校・園、千葉県内では2校2園が表彰されます。

これまでの本校の読書活動が評価された結果です。今後も子供たちの読書活動のさらなる充実を図ってまいります。

## 4月行事予定

- |                               |                  |
|-------------------------------|------------------|
| 5日 始業式                        | 16日 委員会          |
| 6日 入学式<br>(2~6年自宅学習)          | 17日 4時間授業・学級懇談   |
| 8日 短縮日課3時間                    | 18日 6年全国学力学習状況調査 |
| 8日~10日<br>新入生保護者ガイダンス         | 19日 聖徳太子奉賛会      |
| 10日 脊柱検査(5年)                  | 22日 朝会(任命式)      |
| 11日 6年内科検診                    | 23日~26日 6年修学旅行   |
| 13日 花まつり(3年稚児)<br>(3年生以外自宅学習) |                  |



2024年4月号 4月5日発行

2024年度の小学部教職員です。  
よろしくお願いいたします。

1松:	1菊:	副担任:	音楽・図工(1年) 家庭科(5, 6年)
2松:	2菊:	副担任:	図工(2年)理科(3年) 情報(3~6年)
3松:	3菊:吉田	副担任:	体育(1~3年)
4松:	4菊:田村	副担任:	英語(1~6年)
5松:	5菊:松坂	副担任:	理科(4~6年)
6松:	6菊:富田	副担任:	体育(4~6年)
情報:	(3~6年)		
図工:	(3~6年)	音楽:	(3~6年)、(2年)
書道:	(1~6年)	読書・司書:	(1~6年)
英語:			(1~6年)
・副学院長		・教頭	(5, 6年総合的な学習 調べ)
・副教頭	(1~6年仏教)		
・副教頭	(3, 4年総合的な学習 調べ、5, 6年算数 IT)		
・養護教諭	・事務職員		
・カウンセラー			
・司書補助			

☆下線部:本年度着任教職員

## 今月の目標

「きまりを守って、落ち着いた生活をしましょう。」

## お知らせ

「障害者差別解消法」の改正施行により私立学校に於いても合理的配慮の提供が義務となりました。学校における合理的配慮の提供に係る申し出(意思の表明)についてお知らせを配付しましたのでご確認ください。

## お釈迦様と聖徳太子

国府台女子学院では、4月の仏教行事として仏教の開祖であるお釈迦さまの誕生日を祝う「花祭り」と、「和国の教主(日本のお釈迦さま)」と尊ばれる聖徳太子をお讃える「聖徳太子奉賛会」を開催しています。

紀元前5世紀頃にインドで誕生したお釈迦さまと日本の飛鳥時代に活躍した聖徳太子(厩戸皇子)は、どちらも「無常([むじょう]常に変化し続けること)であるこの世界を、偏見を持たずに心の目で見ると」という考えを持っていました。

身分差別や偏見の強かった時代に、お釈迦さまは「生まれを問うことなかれ、行いを問え」と説き、聖徳太子は「我かならずしも聖に非ず、彼かならずしも愚に非ず、共に是れ凡夫のみ(自分がいつも正しいわけではない。相手が愚かで間違っているわけでもない。お互いに間違えることのある平凡で弱い人間にすぎない)」と『十七条憲法』に述べています。お釈迦さまや太子は、身分や出自(現代でいう人種・民族・文化の違い)にとらわれず、人の意見や考えが自分と違うのは当然であると説いており、現代に生きる私達に自分の考えや正義を押しつけず、公平な目で、この世界を見るように教えてくれているのです。



## 見てみよう! 聞いてみよう! 読んでみよう!

『歎異抄』は、親鸞聖人の言葉を弟子の唯円がまとめたものです。『歎異抄』の魅力について書かれていた新聞記事からの抜粋です。「自力の限界を認め、できない自分を受け入れると、かえって周り何が起ころうと揺るがなくなる。人はそんな逆説にひかれるのかもしれない。」機会があったら是非お読みください。小学部では、毎年、卒業生に贈呈しています。

